

高知国際中学校・高等学校の校歌の取扱いの決定に向け  
高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の学校関係者  
から意見を伺う会 会議録

高知国際中学校・高等学校の校歌の取扱いの決定に向け高知南中学校・高等学校  
と高知西高等学校の学校関係者から意見を伺う会

場所：高知共済会館

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和5年2月16日(木) 18:30

閉会 令和5年2月16日(木) 19:40

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席者 教育長 長岡 幹泰

教育委員 平田 健一

教育委員 永野 隆史

教育委員 森下 安子

教育委員 町田 美紀

欠席者 教育委員 弥勒 美彦

(3) 教育委員会事務局出席者

高知県教育委員会事務局 教育次長 合田 和穂

“ 教育次長 竹崎 実

“ 高等学校振興課長 野田 健一

“ 高等学校振興課長補佐 長岡 潤司

“ 高等学校振興課チーフ 中越 啓介

“ 高等学校振興課主幹 佐竹 夏生

(4) 学校関係出席者

高知南中学校・高等学校 校友会 2名

“ P T A 1名

“ 国際教育振興会 1名

高知西高等学校 保護者 1名

“ 校友会 1名

“ 国際交流推進会 1名

## 【教育委員会挨拶及び趣旨説明】

事務局	<ul style="list-style-type: none"><li>●定刻となりましたので、ただいまから、高知国際中学校・高等学校の校歌の取扱いを検討するにあたり、学校関係者の皆様から意見をお聞きする会を開催します。</li><li>●私は本日司会を務めます、高知県教育委員会事務局高等学校振興課チーフの中越と申します。よろしく願いいたします。</li><li>●次に、傍聴に関してのお願いをお伝えします。</li><li>●本日の会は公開としておりますが、各学校の学校関係者の代表の皆様からご意見をお伺いすることとしております。そのため、私語や拍手など会の支障となることについては、お控えいただきますようお願い申し上げます。</li><li>●それでは開会にあたり高知県教育長長岡から挨拶を申し上げます。</li></ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"><li>●こんばんは。教育長の長岡でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</li><li>●本日は本当にご多用のところ、この会にご参加いただきましてありがとうございます。感謝を申し上げます。</li><li>●さて平成 26 年 10 月に策定いたしました県立高等学校再編振興計画では、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校を統合いたしまして、新たな中高一貫教育校を設置するとしまして、平成 30 年度に高知国際中学校、そして令和 3 年度には高知国際高等学校を開校させたところでございます。</li><li>●この高知国際中学校・高等学校は、世界的な教育プログラムであります、国際バカロレア教育を導入しまして、これまで高知南中学校・高等学校や高知西高等学校が取り組んでこられました国際理解教育、或いはグローバル教育を継承・充実させ、本県におけるグローバル教育のトップ校を目指すとしております。</li><li>●この統合に関しましては、計画策定までのプロセスや校名のことなどで混乱を招いた部分もございました。しかし、その後の統合に向けた取組に関しましては、皆様方のご理解、ご協力をいただき、統合完了を迎える年となっております。</li><li>●特に高知南中学校・高等学校、そして、高知西高等学校の学校関係者の皆様方には、学校へのご支援に対し、改めて感謝申し上げます。</li></ul>

	<p>●さて、この高知国際中学校・高等学校の校歌に関しましては、平成 29 年「高知西高等学校と高知国際中学校・高等学校が同居する平成 30 年度から平成 34 年度までは、式典及び体育祭等の合同行事で、中高同じ校歌を歌うことで一体感を育むため、高知西高等学校の校歌を高知国際中学校・高等学校の校歌とする。そして平成 35 年度中に、高知国際中学校高等学校の生徒のみになった時点で改めて在校生等の意見を聞き、県教育委員会において決める」としているところであります。</p> <p>●来年、令和 5 年度には、県教育委員会として決定をしていくこととなります。そして、決定にあたっては、学校関係者の皆様からも、ご意見を伺うとしておりまして、今日、このような場を持たせてもらったところでございます。ぜひ本日はいろいろなご意見をいただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>●続きまして、本日出席の教育長並びに教育委員を紹介させていただきます。まず先ほどご挨拶をさせていただいた高知県教育長長岡でございます。</p>
教育長	<p>●長岡です。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>●教育委員の平田委員です。</p>
教育委員	<p>●平田でございます。どうかよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>●同じく、永野委員です。</p>
教育委員	<p>●こんにちは。永野と申します。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>●同じく、森下委員です。</p>
教育委員	<p>●森下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>●同じく、町田委員です。</p>
教育委員	<p>●町田と申します。よろしくお願いいたします。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本日、弥勒委員は所用のためご欠席とのご連絡を受けております。その旨、申し添えます。</li> <li>●それでは、お手元にある次第にしたがいまして、進行させていただきます。</li> <li>●本日の会の趣旨説明を高等学校振興課長の野田が行います。</li> </ul>
高等学校振興課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>●皆様こんばんは。高等学校振興課長の野田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</li> <li>●お手元の次第をおめぐりいただきまして、資料をご覧ください。この資料に基づきまして、少し概要を説明させていただきます。</li> <li>●高知国際中学校・高等学校につきましては、先ほど教育長の挨拶にありましたように、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校とを統合して設置した学校であること、そして、校歌につきましては、現在高知西高等学校の校歌を校歌としていただいております。</li> <li>●このことにつきましては、改めてになりますけれど、高知国際中学校・高等学校が、高知西高等学校の敷地に設置されますこと、そして統合完了までの間は、高知西高等学校の生徒と、高知国際中学校・高等学校の生徒と一緒に学びますことから、資料に記載のとおり、平成 29 年 3 月、「高知西高等学校と高知国際中学校・高等学校が同居する平成 30 年度から平成 34 年（令和 4 年）度までは、式典及び体育祭等の合同行事で中高同じ校歌を歌うことで、一体感を育むために、高知西高等学校の校歌を高知国際中学校・高等学校の校歌とする。平成 35 年度中に高知国際中学校・高等学校の生徒のみになった時点で、改めて在校生等の意見を聞き、県教育委員会において決定する」ということになってございます。</li> <li>●平成 30 年度に国際中学校が、令和 3 年度には高知国際高等学校が開校しまして、この決めたことに従いまして現在、国際中学校・高等学校では高知西高等学校の校歌を校歌として歌ってきております。</li> <li>●令和 5 年度に入りますと、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合が完了いたします。高知国際中学校・高等学校の在校生が全学年そろいますので、在校生徒の意見を聞くようにいたします。</li> </ul>

事務局	<p>●現在検討しております校歌の取扱いの決定に向けての今後のスケジュールですけども、令和5年度に入り、まずは高知国際中学校・高等学校の生徒に、これまでの経緯の説明とか、現在の校歌についての周知を行いました後に、生徒の意見を聞くこととしたいと考えております。</p> <p>●聞く方法につきましてはアンケートが適当ではないかとも考えておりますけども、その他代表から意見を聞く方法なども考えられます。</p> <p>●実施方法につきまして、検討の上、5月には生徒の意見を聞いていきたいというふうに考えてございます。</p> <p>●その後、高知南中学校・高等学校、高知西高等学校、高知国際中学校・高等学校の学校関係者の皆様に生徒の意見結果でありましたり、校歌に関するご意見をお伺いしまして、その上で、5月または6月の県教育委員会におきまして、校歌の取扱いを決定していきたい、そういうようなスケジュールを考えているところでございます。</p> <p>●本日の会議の進め方につきましては、高知国際中学校・高等学校の校歌に関するご意見を伺います会として、高知南中学校・高等学校と、高知西高等学校の学校関係者の代表の皆様にご参加をいただいております。</p> <p>●初めに、高知南中学校・高等学校の学校関係者の代表の皆様にご意見をお伺いしました後、高知西高等学校の学校関係者の代表の皆様からご意見をお伺いいたします。</p> <p>●意見を伺う時間につきましては20分程度、いただきました意見につきまして、本日出席の教育長、教育委員から、何か確認や質問等ありましたら確認させていただく時間を用意しております。最大各学校の時間を30分以内とさせていただきます。</p> <p>●また、学校関係者の代表、発言される人数につきましては、あらかじめ4名以内として、事前にご協力をいただいております。</p> <p>●それでは代表の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>●私からの説明は以上でございます。</p> <p>●それでは、高知国際中学校・高等学校の校歌に関して、ご意見をお伺いします。</p>
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高知南中学校・高等学校の学校関係者の皆様よろしくお願ひいたします。</li> <li>●なお、最初に自己紹介をいただいた上で、ご意見を頂戴いただければと思います。よろしくお願ひいたします。</li> </ul>
--	---

【高知南中学校・高等学校の学校関係者から意見をお聴きする（質疑を含む）】

<p>校友会前会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高知南高等学校校友会前会長の〇〇と申します。よろしくお願ひします。</li> <li>●今回、このように統合校の校歌について、意見を聞いていただける場を設けていただき、心より感謝申し上げます。</li> <li>●本題に入る前に高知南中学校・高等学校の関係者を代表して、どうしても伝えておきたいことがございます。</li> <li>●7年前の平成28年、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合について協議をしているときに、当時の担当課である高等学校課より本校関係者に対し、「校名について先に決定をしたい。そのため、校名の話をする時に校歌の話をする」と話が進まないのをやめて欲しい。校歌については後日、改めて意見を伺う機会を設ける。」等の説明があり、まずは校名についての協議をしました。</li> <li>●しかし、その後、校歌については協議の場が設けられることはなく、何の説明もないまま県教育委員会は、令和4年度までは高知西高等学校の校歌を歌うということを決められ、また、その決定を私どもは報道で知りました。</li> <li>●このようなことがあり、失礼ながら私たちの正直な気持ちをお伝えすると、当時の県教育委員会に対し、強い不信感を抱き、裏切られたという思いで今日まで来たことをまずはお伝えしておきます。</li> <li>●ただ、今年4月、高等学校振興課より校歌の取扱い、校訓の取扱いについて説明をいただき、そして、今日このように意見を聞いていただける場を設けていただき、私どもも、過去のことは過去のことにし、しっかりとこれからのことについて、私たちの意見を聞いていただきたいと思ひます。</li> <li>●なお、この場の発言については時間の都合上、高知西高等学校については「西」、高知国際中学校・高等学校については「国際」、本校については「南」と表現させていただくことをご了承ください。よろしくお願ひします。</li> </ul>
---------------	--

<p>P T A 前会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高知南中学校・高等学校前 PTA 会長の〇〇と申します。よろしく申し上げます。</li> <li>●私からは、実施が予定されているアンケートについて意見を述べさせていただきます。統合が発表された当時から、南関係者は自分たちの母校が現在の形を残さず、歴史が閉ざされてしまうさみしさを抱えてきました。それと同時に、南と西の思いを継承する国際に思いを託し、応援しようという気持ちも大切にしてきました。</li> <li>●しかし、平成 29 年 3 月に西の校歌を歌うという決定がなされたことに残念な思いを抱いてきました。</li> <li>●私自身、国際の開校式に出席させていただきましたが、新設校の式典で西の校歌が歌われることを一保護者として、とても不思議に感じたことを覚えています。</li> <li>●それ以降も「西の校歌だと知らなかった。」「どうして国際の校歌はないのか。」等、たくさんの声を耳にしました。</li> <li>●校歌について、生徒へのアンケートが行われるとのことですが、アンケートの実施に際して、絶対にお願いをしておきたいのは、西の校歌が歌われている現状やそれに至る経緯を国際の在校生に対して、文書だけでなく口頭でもしっかりと説明していただきたいと思います。</li> <li>●私たちの勝手な想像かもしれませんが、学校行事などで校歌を歌い、接する機会が多ければ多いほどその歌に親しみや愛着を覚えると思います。</li> <li>●つまり、上の学年になるほど「このままで良い」との回答が多くなると想定されます。一方で新入生や歌った年数の少ない生徒にとっては、それほどまでのこだわりはなく、しかも「新しい校歌が良い」という積極的な意見にまでは至らず、結果的に「どちらでも良い」という回答が多いのではないかと思います。3 択によるアンケートでは、偏った結果になることが想定されるのではないのでしょうか。</li> <li>●アンケートに際しては、「現状のまま」か「変更」かの選択ではなく、例えば「どんな校歌が良いか」、「どのような言葉を入れてほしいのか」等、校歌の選定という課題に主体的に意見を述べることも検討してはどうかと思います。</li> <li>●当面、西の校歌を歌うと判断したのは大人です。したがって、校歌の決定においてアンケート結果にあまりに重きを置いて</li> </ul>
------------------	--

<p>校友会副会長</p>	<p>決定してしまうことは、大人としての責任を放棄し、子どもに責任を負わせるかたちとなるのではないのでしょうか。そうではなく、アンケートはあくまで判断材料のひとつとし、最終的には大人が責任を持って総合的に判断をし、決定すべきであると考えます。以上、よろしく申し上げます。</p> <p>●高知南高校 11 期生、校友会副会長の〇〇です。よろしくお願いいたします。</p> <p>●南高校で青春時代を過ごした卒業生の立場から発言させていただきます。そもそもの話として、南高校が統合されるということ自体に大変なさみしさを覚えています。3 年間または中学から言えば 6 年間、自分たちが過ごした学び舎が後輩達に受け継がれていくというのは、漠然とあたりまえのことだと思っていました。普段意識することはなくても、後輩達の活躍を報道などで知った時や、たまたま近くを通りかかった時に自分たちの青春時代も思い出されるものです。</p> <p>●しかし、統合は大きな時代の流れのなかで、県の施策として行われたものであり、これは県民のひとりとして、しっかりと受け止めなければいけないと、このように考えています。</p> <p>●しかし、だからこそ疑問に感じる点があります。統合に際して、高知国際は高知西高校の敷地に同居しながらも、校名も制服も校章も新規に構えて、ひとつの敷地にふたつの学校が同居するというかたちでスタートしたにも関わらず、校歌だけは「一体感」という理由で、高知西高校の校歌がそのまま高知国際の校歌とされた点です。</p> <p>●もちろん、西と国際が同居するという都合上、当時の西高校の生徒さんから校歌を奪うわけにもいかないということで、暫定的に高知西高校の校歌を使わざるを得なかったという事情は理解できないものではありません。</p> <p>●ただ、統合は完了し、つまり同居状態が解消されてそれ以降も高知西高校の校歌は歌われ続けるということについては、南の卒業生として「私たちの学校は継承されていないんだな。」「高知西高校だけが継承されたんだな。」という印象を持たざるを得ません。それは、南の卒業生というだけではなく、県民の目から見てもそのように見えるのではないのでしょうか。</p> <p>●なお、事前に西高校校友会の皆様より、現在 3 番まで歌われ</p>
---------------	---



<p>国際教育振興 会副会長</p>	<p>ている西高校の校歌に、南の校歌に使われているフレーズを用いた4番を追加してはどうかというご提案をいただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ただ、私たちは「新しい学校には新しい校歌がふさわしい」という、この意見が校友会の大前提となっております。</li> <li>●両校の統合という観点からしても、公平な提案だとはやはり受け止められないなという思いを持っています。</li> <li>●また、現在歌われている歌詞に手を加えていくということは、その校歌を大切にしたいという方々の思いを損なうことになりはしないかということも心配をしています。</li> <li>●繰り返しになりますが、新しい学校には新しい校歌をぜひ作っていただきますよう、よろしくお願いいたします。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際教育振興会の〇〇です。よろしくお願いいたします。</li> <li>●私からは校歌の意義について意見を述べたいと思います。はじめに、再度確認させていただきますが、県教育委員会が国際で西の校歌を使用してきた経緯については、国際と西の生徒が同じ敷地内で活動するためという理由であったと思います。</li> <li>●本年をもって統合が完了し、来年度からは国際の生徒のみが校内で活動するというのであれば、新しい校歌になることが当然の流れではないかと、また、関係者のみならず県民の多くが思っていることではないでしょうか。</li> <li>●さて、南は中高一貫教育のもと、進取の精神を校訓に自由と規律を教育目標に掲げ、学力の向上と人間性の涵養を教育の軸に取り組んでまいりました。</li> <li>●また、西はハードスピリッツ、貫徹精神を校訓に意欲を持って前向きに取り組めるよう、様々なことにチャレンジし、一人一人の夢の実現に向けて取り組んできた学校です。</li> <li>●両校ともに普通科の他に国際科、英語科を併設した学校で、まさに国際は両校の精神を礎にさらなる向上を目指してできた学校であると認識しています。</li> <li>●また、国際が推進している探究型学習、自らの課題を見出し、そのことについて主体的・協働的に課題を図るとともに、新しい価値を創造していく力を育成すると伺っています。</li> <li>●まさに両校のこれまでの教育を受け継ぎ、グローバル教育やバカロレア教育を推進する新たな学校であり、公立学校としては県内唯一、また全国でも唯一、前例のない取組を県教育委員</li> </ul>
------------------------	---

	<p>会は目指していると思います。</p> <p>●私たち南の関係者一同は、国際の生徒たちが自身の考えや志で教育を学び、高知から世界へ羽ばたいていく姿を強く望んでいます。</p> <p>●また、県内の小学生や中学生、またこれから生まれてくる子どもたちも含めて、県民の多くが国際に対して大きな夢や希望を抱いていることは言うまでもありません。</p> <p>●そのためにも、校歌を含めた新しいかたちの国際としてこれから歩んで欲しいと思っています。</p> <p>●発言の終わりとして、今日ここに同席した方以外にも、南、西両校の関係者のほとんどが同じ思いをし、これからの国際の発展に両校の関係者が手を取り合っ共々に支え、共に応援していこうと、そういう思いをしているのは事実であります。その思いを教育委員の皆様方に受け止めていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>校友会前会長</p>	<p>●最後に私の方から発言させていただきます。南の卒業生も1万人を超えており、校歌に対しては卒業生それぞれに思いがあり、なかにはごく少数ですが「南の校歌を残して欲しい」という意見もありました。</p> <p>●しかし、県民のための県立高校として一番良いのは何かと考え、新しい校歌を作るべきではないかと思いをひとつにしております。</p> <p>●私たちは、国際が県民の大きな期待を背負い、これからの取組を進める学校であって欲しい、また、新たな教育目標を掲げ、未来に向かって邁進する学校であって欲しいと願っており、そうした思いを新しい校歌に込めるべきだと強く望みます。</p> <p>●今日、こうして私たちの意見を聞いていただく機会を設けていただいたのは、在校生の意見だけでなく、私たち関係者の意見も聞き、総合的に判断するためのものだと思っております。ご検討のほどをどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>●高知南中学校・高等学校の学校関係者の皆様、今の時間でのよろしいでしょうか。それでは、教育委員会からの質問をお願いいたします。</p>

<p>高等学校振興課長</p>	<p>●高等学校振興課の野田でございます。先ほど資料でご説明しましたように、生徒からの意見を聞く方法としましては、アンケートと確定しているわけではございません。今、現在の案としてアンケートとか聞き取り等という形で検討している段階でございますので、その点は補足でご説明させていただきたいと思っております。</p>
<p>事務局</p>	<p>●よろしく願いいたします。何かご質問はないでしょうか。</p>
<p>高等学校振興課長</p>	<p>●振興課の野田と申します。質問があればということで時間をとらせていただいております。もし、特に確認することがないようでしたら、まだ時間がございますので、30分という時間をとらせていただいております。そのなかでまだ言い足りないとか、何か補足でどうしてもお伝えしたい、この時間を20分ということで最初にご説明させていただきましたので、そのなかでもし、言うことがあるということであれば、高知南中・高等学校の関係者、また、後からお聞きします高知西高等学校の関係者の皆様にも、何かあればというふうに考えております。そういう方たちでもよろしいですか。質問がないということであればということですが、両校よろしければそういう方たちで、もし追加することがあればということで、30分という時間をとらせていただいておりますので、そのなかであれば。特になければ、ご意見を伺いましたので、次に進めさせていただければと思っておりますけども、かまいませんでしょうか。はい。ありがとうございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>●質問ということではないんですけども、いただいたご意見、しっかりと我々としてですね、受け止めて検討していきたい。そして最終的には、県教育委員会のなかできちんとした方向性を出して、決めていきたいというふうに思います。今日いただいたご意見はそれぞれに皆様方の真意が入ったものであり、我々としてしっかり受け止めなければいけないというふうに思っております。また十分に検討させていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>●高知南中学校・高等学校の学校関係者の皆様ありがとうございます。</p>

	<p>●続いて、高知西高等学校の学校関係者の皆様から校歌に関してのご意見を伺いたく思います。席の移動をお願いしますとともに、少し休憩を挟ませていただきたく思いますので、次の開始を 19 時 10 分よりとさせていただきたいと幸いです。よろしくをお願いします。</p>
--	---

【高知西高等学校の学校関係者から意見をお聴きする（質疑を含む）】

事務局	<p>●それでは、お時間となりましたので再開をさせていただきます。高知西高等学校の学校関係者の代表の皆様からご意見をいただきます。先ほどと同様、最初に自己紹介をしていただいたうえで、ご意見を頂戴いただければと思います。よろしくお願いいいたします。</p>
校友会会長	<p>●高知西高等学校校友会会長の〇〇でございます。今日はこのような時間をいただきまして、誠にありがとうございます。今回の意見聴取に対しまして、県教育委員会の事務局の方から校歌のスケジュールに関する学校関係者としての意見というご要望を受けました。</p> <p>●そのため、まず校歌に関する意見を述べさせていただきます。中高一貫教育校が設置させるにあたりまして、校名問題で大きく揺れました。紆余曲折がありましたが、校名は高知国際中学校・高等学校に決まり、今日に至っています。</p> <p>●この中高一貫教育校の名称が決まった平成 28 年度第 3 回の教育委員会協議会の場で、当時の田村教育長が「高知南中・高等学校と高知西高等学校との統合」との発言がありました。県の後期実施計画におきましても、「統合」と示されており、県教育委員会からの説明のとおり両校とも「廃校」や「閉校」ではなく、高知国際中学校・高等学校に統合・継承されるとされております。</p> <p>●しかし、一部で新しくできた学校だから新設校だとの誤解があるようです。このことを大変残念に思っております。また、これまでの経過、つまり国際中学校・高等学校は、高知南中・高等学校と高知西高等学校が統合して生まれた学校であることを誤解されている方には正しく理解をして欲しいと思います。これにつきましては、こちらにいらっしゃいます平田委員</p>

また永野委員におきましては、当時の様子をよくご存じのこと  
であると思います。

●次に、校友会の考えを述べさせていただきたいと思います。  
私ども高知西高等学校校友会の校歌に対する考え方を改めて  
お示しをしたいと思います。私たちは、今後も現在の高知国際  
中・高等学校の校歌を継承して欲しい、歌い続けて欲しいと思  
っております。そしてこのことを強く願っております。

●しかし、一方の統合校である高知南中・高校の思いや、歩み  
を重ねていく高知国際中・高校の思いが十分に入っているとは  
言えません。

●そのため、1番から3番までの歌詞は残し、4番に国際、南  
中・高校の校歌のキーワードを高知南校友会が、高知国際の生  
徒が作詞をする、あるいは、4番は高知南高校校友会が作詞す  
る、そして、5番は高知国際の生徒たちが作詞する、このよう  
に統合する高知西高校の校友会と高知南高校の校友会の両校  
の思いと、その流れを継承する高知国際中・高校の生徒の皆さ  
んたちの思いがひとつになった校歌をつくりあげるというこ  
とです。

●なお、曲は現在のものを継承したいと思います。このことを  
高知西高等学校の校友会の校歌に関しての提案の内容といた  
します。

●次に、ご提案した理由として3点、ご説明を申し上げます。

●まず、校歌と校訓の関係性です。校歌は式典や行事で斉唱さ  
れるだけでなく折りに触れて歌われます。その時、歌詞や曲に  
込められた建学の精神や教育方針、自然を賛美し、人としての  
在り方などを知らしめるものです。

●国際中学校・高等学校の校訓は、「進取貫徹」と決まりました。  
これは高知南中学校・高校の校訓である「進取」と高知西  
高校の校訓「貫徹精神」を統合・継承することを象徴する校訓  
であると思っております。そして、高知国際中・高校の10の  
学習者像も含むことから、校歌は校訓に由来する。この内容の  
ものが良いとする一つ目の理由です。

●現在の歌詞は、高知西高校の「われら学ばん、われら睦まん、  
われら鍛えん」という貫徹精神を表現しています。それに高知  
南中・高校と高知国際中・高校にとっての「進取」という趣旨  
を生かした歌詞を加えた校歌が望ましいと考えております。

●少し紹介させていただきます。「南の風吹く青い海辺に 広がる我等の夢は果てなし 燃え立つ心に若き眉あげ 命の翼を羽ばたき交わし 光を望んで憧れ行くよ、輝く瞳に誠を映し 進取の精神鋼と鍛え 未来を望んではるかに行くよ、かわらぬ友愛誓いは固く 理想を望んで喜び行くよ 花かおる青春の園 高知南ああわが母校」一部省略いたしましたが、南中学校・高等学校の校歌です。

●このなかに南高校・中学校のあり方が含まれていると思います。私たちはこの趣旨を、特に、私個人的には、「進取の精神鋼と鍛え 未来を望んではるかに行くよ」まさにこのフレーズが南中学校・高等学校を表現しているのではないかというふうに思っております。

●ぜひ、こうした言葉を今の高知国際中学校・高等学校の校歌に入れていったら素晴らしいものになるというふうに思っております。

●次に、2番目の理由として、現在の校歌の歌詞をあげたいと思います。校歌を制定するにあたりまして、その詞や曲を全国に公募いたしました。多数の応募作品のなかから、作詞は当時在職していた教員の作品が採用され、作曲は在校生の作品が採用されました。作詞・作曲ともに作品としても非常に優れた良質な物だと高い評価を受けております。雄大な曲調のもと、周辺の自然に触れながら、学び舎としてのあり方を見事に表現しています。

●歌詞の冒頭に「あけぼのの」との一節があります。この一節により、校歌を歌う度に新しい運氣や時代が始まる黎明の時を感じ、大きな期待を感じ、自覚を促されます。

●歌詞の内容や作詞・作曲者の作品への思いや意図を考えると、4番や5番をつくって、つくる場合には現行の歌詞に続く校歌ということが望ましいと考えています。

●校名問題の際には、県教育委員の皆様には学校訪問をしていただき、校名問題に対して対応していただきました。今回も国際中・高校と高知西高等学校の校歌として、高知南中・高校の校歌の由来や内容、これをご理解のうえ、ご検討いただきたいと思います。

●最後となります。3点目としましては、高知南中・高校と高知西高校の歴史や伝統の継承に対して述べたいと思います。県

教育委員会からの説明や校名決定の際会議となった平成 28 年度第 3 回教育委員会協議会の場で、教育委員の皆さん全員から両校に対してお言葉をいただきました。「国際中・高校は統合校であるため、西高や南中高は閉校や廃校になるわけではなく、その歴史や伝統は国際中高に継承される。両校の関係者の皆様が、子どもたちのために未来志向で良い学校をつくり、力を合わせてやっていていただきたいと、本当に切に思う次第です。歴史も伝統もなくなるわけではなく、ここから一緒に積み上げていく、歴史がスタートする」等、このような言葉をいただき、私たちはこの言葉を胸にして、これまで努力を積んでまいりました。統合校としていただいたお言葉を体現するためには、3 校が一体となる校歌を作成することが望ましいと私たちは考えています。

●また、歴史を積み重ね、継承するという視点から高知西高校、高知南中・高校、高知国際中・高校という流れが自然であると考えてください。

●このほかの経過につきまして、少しご説明をさせていただきます。校名を協議し、決定した教育委員会協議会において、委員の皆様から「両校の学校関係者の皆様が国際中・高のためにご協力いただけるようお願いしたい。」とのご発言がありました。非常に示唆に富むご発言でした。この発言を踏まえて、私たち高知西高等学校関係者は積極的に支援し、関わりを持つことに心がけをしてまいりました。

●高知国際中学校が開校した時から高知西高 PTA は一体として活動を行っています。PTA 組織の運営面での人的支援、そして財政的な支援を当初から行ってまいりました。課外授業や研修の機会を設けるなど、まさに物心両面の支援を今日も続けております。

●高知国際高校についても、中学校と同じように人的支援や財政的支援を行い、活動を手助けをしています。また、この支援には、国際交流推進会も加わり、海外との交流も視野に入れた活動への支援となり、活動の場も大きく広がっています。このように国際中・高校の教育活動や課外活動を私たちは全面的に支援をしています。

●また、「国際高校はこれまでの卒業生の皆さん、あるいは在校生の皆さんの母校になることは違いない。」という発言があ

りました。この発言を受け、私たち高知西高等学校校友会は3校の在校生や校友会が相互に連携や関係性を強めることができるよう試みもしてきました。

●今年度、統合事業として3回開催いたしました地域ふれあい感謝祭、ミニあけぼの祭、著名な音楽家の佐渡裕氏を招聘しての吹奏楽の特別レッスン等を行い、3校合同のイベントとして企画し、南中高そして国際中高の参加を呼びかけました。国際中・高校には、参加をしていただき、一緒に先生のレッスンを受けたところです。

●中高一貫教育校の校名が決まり、高知国際中学校が開校し、その後、高知国際高校が開校して、来年度統合が完了することになります。この間、私たち高知西高等学校校友会は、高知国際中・高校との高知西高校の生徒の皆さんと一緒に学生生活をおくることを願ってきました。そして、そうなるかどうか大変心配しておりましたが、それは杞憂だったようです。生徒はクラブ活動、生徒会活動等を通じて、一体となって学校の運営に参加をしておりました。

●高知西高校のこれまでの66年間の歴史のうえに、高知南中・高校の36年間の歴史を重ね、これから高知国際中・高校の歴史をつむぎ、一体感を保つためにも、時を超えて、共鳴することができるもの、共通する体験として実感できるためにも、校歌、これらのことも必要です。私たち、高知西高校卒業生約2万5,000名の思いです。

●そして、西高、高知南中高の生徒であった者と、高知国際中高の生徒たちが、今後共有できるものをつくっていくことが、私たち元生徒の責任であり、3校一体の校歌とすることが統合校を体現することになると考えております。

●冒頭に述べましたが、現在の高知国際中・高校の校歌がそのまま継承されることは第一の思いではありますが、高知南中・高校の卒業生、国際中高のこれからの生徒のことを思い、4番・5番の校歌案を含め、ご提案をさせていただきます。

●次に、スケジュールなどにつきまして、意見を述べさせていただきます。まず、大前提として、統合校としての国際中・高校にとってはもちろんですが、高知西高、高知南中高にとっても重要な問題であることから、高知県教育委員会におかれましては、より慎重で丁寧な検討をしっかりと時間をかけて行ってい



<p>国際交流推進 会会長</p>	<p>ただきたいと思います。</p> <p>●具体的には、県教育委員会事務局の案では、高知国際中・高校の生徒に4月から5月に意見を聞くとされています。これは、入学間もない新入生については、現在の高知国際中高の校歌を知らないままに意見を聞かれることとなります。せめて7月末までの期間を設けるなどして、正しい意見聴取にさせていただきたいと考えております。また、どのように意見を聞くのかという方法も検討が必要であると考えます。</p> <p>●次に、県教育委員会による校歌の決定については、これまでの校名問題などにおいても、教育委員お一人お一人が公開会議において理由や根拠を示しながら検討、決定をしていただきました。議論の経過がわかるかたちで、これまでと同様な会議を開催していただきたい、このように思います。</p> <p>●卒業したとはいえ、現在の高知国際中・高校の生徒と同様、私たちもこの統合校の元生徒です。統合校である以上、高知南中学校・高等学校も含め、3校の元生徒と現在の生徒の思いをしっかりと踏まえていただきながら、重ねてにはなりますが、より慎重で丁寧な検討をしっかりと時間をかけて行っていただきたいと思います。以上でございます。</p> <p>●国際交流推進会会長の〇〇と言います。今日は本当にありがとうございます。少し国際交流推進会の活動について、述べさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>●西高国際交流推進会は、平成6年より西高英語教育発展向上の、それを担う人たちの少しでもお力になればという卒業生の保護者たちが強い思いを持って結成された組織です。29年目を迎えました。西高の歴史のほぼ半分に近い年数をこの国際交流推進会は担ってきました。統合にあたって、できれば南中高にもこういうかたちのサポートの組織があるので、できれば一緒に活動したいなとお声もかけさせていただきましたが、今のところまだ実現はしていませんが、将来的に一緒に何か応援する活動ができれば良いなというふうに願っております。</p> <p>●この国際交流推進会は、いろんな形でサポートしてきましたけれども、短く言えば、オーストラリアにフレンズ校という学校がありますが、そこと姉妹提携を結んだり、そして、留学生を受け入れるとき、そして、今どんどん増えてきましたが、英</p>
-----------------------	---

	<p>語科に限らず一般のクラスの生徒さんも留学を望む生徒さんが増えてきております。そういう生徒さんのサポートだったり、そしてまた受け入れるホストファミリーのサポートだったり、そういう活動をしています。</p> <p>●そしてさらに、コロナでできなかった3年ぶりの先輩たちの活躍のなかで、英語教育がいかに大事かっていう部分で今年は3月14日に3年ぶりの講演ができることになっておりまして、英語科の先輩が来て、本当に英語の教科書で勉強することがいかに大事かっていう、そういうお話もしてくださるようになっていきます。西高生が卒業しますけども、国際高校・国際中学校の皆さんに聞いていただいて、今の学生時代にしっかり勉強していただくことの重要性をお話してくださるようになっていきます。</p> <p>●西高の保護者の国際交流推進会のメンバーは、西高の出身者もいますが、その多くの人たちが母校は違います。西高ではありませんが、ただ一点、つながりは西高の保護者であったということだけなんですけれども、その保護者として、活動していくなかで、卒業して子どもはいないんだけど、そのまま在学生の人たちの応援をしたいということで、頑張ってきましたが、そして機会あるごとに西高の校歌を皆さん歌ってきました。そのなかで、強く惹かれたのが、この校歌の歌詞と曲だったんです。歌う度に、なぜこんなに心惹かれるんだろうなっていうことを言いながら、歌い続けてとうとう母校よりも長い間この校歌を歌うことになったという方もたくさんいらっしゃいます。</p> <p>●校名が変わりましたが、私たち国際交流推進会の活動は今後も存続していきながら、また必要に応じた形でサポートできればと思っております。未来につなぐもののひとつとして、私たちが一番愛してやまないこの校歌を何らかのかたちで継承していただくことができないかなというふうに強く思っています。そのなかで、統合の意味と新設校の意味は何なんだろうと。</p>
事務局	●失礼します。お時間となりましたがよろしいでしょうか。
国際交流推進	●すみません。よろしく申し上げます。

会会長	
事務局	●20分というお時間がきましたので、何か教育長並びに教育委員の皆様、ご質問等ございませんでしょうか。
教育長	●これも同じで、質問とかいうことではないんですけれども、今日いただいているご意見というのは、十分に我々としても受け止めて、西高の皆さん、南中高の皆さんのご意見を真摯に受け止めてですね、検討していかなければいけないと、そういうことを強く、今日それぞれのご意見をいただいてですね、さらに強く感じたところでございます。少しまだ時間があり、そのなかでまだ言い足りてないところについては、まだ少し時間があるようですので、続けていただければと思います。
高等学校振興課長	●20分ということで、何か質問等なければ追加でという話を南の関係者にはさせていただきました。同じようなかたちでよろしいでしょうか。
PTA会長	●高知西高校PTA会長の〇〇と申します。時間の都合を超えたということで、私の方も手短かに話させていただきたいと思いません。 ●まずですね我々P、PTAのPですね、保護者の立場での校歌に対する考えですが、一部先ほど〇〇会長(校友会会長)・〇〇会長(国際交流推進会会長)からも言われたように重複する部分はあるかとは思っていますが、校歌はですね、子どもたちにとってのもので、まずはあること、新しく入学を希望しようとする中学生にとっては、校歌が高校を選ぶ選択肢のひとつ、ものさしにはまずはならないということ。校歌は、この高校に子どもたちが希望と不安を胸に抱き、念願の高校に入学し、その高校生活をおくっていくなかで校歌の曲調を歌として覚えていき、歌詞の意味を理解していき、心の中で育てていくもの、落とし込んでいくものであると思っています。 ●つまりは、子どもたちにとっての校歌であることの位置付けには変わりなく、校歌に対する思いは、子どもたちや卒業生の皆さんには達しないものであるため、校歌に対する決定には慎重な審議等をお願いしたいと思っております。

	<p>●国際高校の現2年生は、入学してから5年間この高知西高校の現校歌を歌い続けています。令和5年度の校歌決定のなかで、仮に曲調が変わったものになるということは、非常に可哀想であるという声もいただいております。</p> <p>●また、新設校ではなく統合校である由縁の意味を理解したうえでの校歌決定への配慮、新しい曲のものになるということは、統合校の意図をなさないのではないかとということも考えております。以上、追加となります。</p>
事務局	<p>●高知西高等学校の学校関係者の皆様ありがとうございました。</p>
教育次長	<p>●あと5分くらいあります。もし何か追加があれば。</p>
校友会会長	<p>●校友会長の〇〇でございます。少し時間があるようですので、私から少しお願いしたいと思います。〇〇(校友会会長)、〇〇(国際交流推進会会長)、そして〇〇(PTA会長)の方が答弁した、私たちは色々考える中で、校歌の在り方について考えてきました。先ほど述べさせていただきましたが、校歌というものは、その学校のあり方、生徒たちに何を伝えるかということを端的に表現するものであると思います。</p> <p>●先ほど申し上げましたように、高知国際中学校・高等学校の校訓は、「進取、貫徹」ということに決まりました。「進取」は先ほど申しました高知南中・高等学校の方の校訓であります。また「貫徹」は「貫徹精神」で高知西高校の校訓であります。今回、統合ということでいろいろお話もありましたけれども、校訓にこの「進取、貫徹」という言葉が決まった、これを私たち非常に重たく感じております。</p> <p>●先ほどに申しましたように、南さんにつきましては、「進取の精神鋼と鍛え 未来を望んではるかに行くよ」という非常に素晴らしい言葉があります。まさに南中高を象徴している言葉だと思います。</p> <p>●また、私たち西高の方につきましては「貫徹精神」、「われら学ばん われら睦まん われら鍛えん」この3つを在籍した3年間でたたき込まれました。やはりこの校訓というのは、そして校歌というものは時を超えて同じ、共通した体験として引き</p>

事務局	<p>継がれていく、これが伝統ではないかというふうに思っております。</p> <p>●やはり、紆余曲折あるなかで中高一貫教育校が誕生したその思いを受け止め、まさに西高校と南中高が一体となって、国際中学校・高等学校を盛り上げていく、これが私たち卒業生の務めでもあります。そのためにも私たちは、両校の精神を引き継ぐためにも、ご提案させていただいた方法を再度お願いをしたいと思います。私は以上です。</p> <p>●よろしいでしょうか。それでは、すべてのご意見をお伺いすることができましたので、以上でご意見を伺う会を終了いたします。終わりにあたり、高知県教育長の長岡がご挨拶を申し上げます。</p>
-----	--

【閉会】

教育長	<p>●今日は本当にありがとうございました。本日、私と教育委員がですね、高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の学校関係者の代表の皆様方から直接その思いをお聞きすることができました。令和5年、来年度に入るとですね、高知国際中学校・高等学校の生徒の皆さん方からの意見を聞き、また、改めて学校関係者の皆様方の意見を踏まえ、教育委員会においてですね、決定をしていかなければなりません。その際の大変重要な参考意見として、今日はお話を聞かせていただいて本当にありがたく思っております。今後、我々の方もですね、覚悟を決めて検討をしていきたいというふうに思っておりますので、本日は本当にどうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>●本日ご出席いただきました皆様、誠にありがとうございました。以上で終了いたします。どうかお忘れ物のないようお気を付けてお帰りください。ありがとうございました。</p>